



2014

大学院講義要項

外国語学研究科

言語学専攻

京都産業大学大学院

GRADUATE SCHOOL KYOTO SANGYO UNIVERSITY

■ LL001

科目名	: 一般言語学研究
担当者	: 大城 光正
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 言語に関する一般理論とその研究方法の習得、及び個別言語の記述的・歴史比較的研究あるいは一般言語理論の構築をめざすための言語学的な知識の習得を目的とする。
授業内容・方法	: 出席者の希望の研究分野を考慮に入れて、欧文の言語学専門書の講読と、更には他の論文も使用して討論、講義をくみあわせておこなう。主な内容は形態論を扱う。
授業計画	: 第1回 言語に関する一般理論の概説 第2回 言語に関する一般理論の問題点 第3回 一般言語理論の構築をめざすための言語学的な知識について 第4回 一般言語理論の構築をめざすための問題点 第5回 形態論に関する研究方法について 第6回 形態論研究の問題点 第7回 形態論の記述的・歴史的研究について 第8回 形態論の特に比較言語学的研究について 第9回 個別言語(特に形態論)の記述的研究について 第10回 個別言語(特に形態論)の記述的研究の問題点 第11回 個別言語(特に形態論)の歴史比較的研究について 第12回 個別言語(特に形態論)の歴史比較的研究の問題点 第13回 個別言語(特に形態論)の歴史比較的研究の分析方法 第14回 個別言語(特に形態論)の歴史比較的研究の分析結果の検証 第15回 形態論研究の問題点とその総括
評価方法・基準	: 各自の口頭による発表内容(50%)と、提出されるレポート(50%)で評価する。
教材など	: 適宜指示する。
備考	:

■ LL002

科目名	: 比較言語学研究
担当者	: 矢野 道雄
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 古代インドのサンスクリット資料を、11世紀のペルシア人博学者アル・ビールニーがどのように利用したかを考察し、インドとイスラームの言語観・文法観を比較する。
授業内容・方法	: アル・ビールニーの『インド誌』のアラビア語テキストを精読し、サンスクリット原典と比較する。
授業計画	: アル・ビールニーの『インド誌』は近代インド学を先取りしたものとしてきわめて重要な文献である。 この書物にはアル・ビールニー自身がサンスクリット・テキストをアラビア語に「翻訳」して紹介している部分があるいくつかあるので、それらの部分を抽出してサンスクリット原典と比較する。 授業では Edward C. Sachau による校訂テキストと、Hyderabad-Decan から出版されているテキストを比較しながら使用し、Sachau による英訳を参照する。ただしこの英訳は出版後 100 年以上経っているので、その後のインド学研究の成果を踏まえて、批判的に検討する。
評価方法・基準	: 平常評価
教材など	: プリントを配付する。
備考	:

■ LL003

科目名	: 対照言語学研究
担当者	: 浜田 盛男
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 日本語と各自の専攻言語の仕組みを理解した上で、対照研究の方法論を習得する。
授業内容・方法	: 音声・音韻および文法（形態・統語）に関する対照言語学の問題を考える。
授業計画	: 第1回 言語の対照研究の一般理論と分析方法 第2回 言語の対照研究の理論と方法（専攻言語との比較対照の観点から） 第3回 言語の対照研究の実践研究（専攻言語との比較対照の観点から） 第4回 日本語と対照研究の現状 第5回 日本語と対照研究の問題点 第6回 対照研究における母語干渉 第7回 対照研究における誤用分析 第8回 日本語の音声と音韻体系 第9回 日本語と他の言語との音声・音韻体系の対照研究 第10回 言語の対照研究における形態論上の問題 第11回 日本語と他の言語との形態論上の対照研究 第12回 日本語と他の言語との形態論上の対照分析 第13回 日本語と専攻言語間の対照研究の問題点 第14回 日本語と専攻言語間の対照研究の分析 第15回 対照言語学研究の問題・総括
評価方法・基準	: 各自の口頭による発表内容(50%)と、提出されるレポート(50%)で評価する。
教材など	: プリント配付
備考	:

■ LL004

科目名	: 応用言語学研究
担当者	: 山本 啓二
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 世界の諸言語に存在するいろいろなタイプの所有構文について学び、自分が研究している言語の所有構文の組織がどのようなものであるか考察する。
授業内容・方法	: Heine(1997) を講読し、世界の諸言語に存在するいろいろなタイプの所有構文について学ぶ。
授業計画	: 第1回 状態 第2回 序論 第3回 区別 第4回 いくつかの所有概念 第5回 問題点 第6回 過程 第7回 情報源 第8回 文法化 第9回 目標 第10回 図式の再構 第11回 言語内部のヴァリエント 第12回 図式と所有概念 第13回 さらなる論点 第14回 属性所有について 第15回 情報源から目標へ
評価方法・基準	: 平常点 50%、レポート 50%で評価する。
教材など	: Heine(1997) <i>Possession: Cognitive sources, forces, and grammaticalization</i> , Cambridge, Cambridge University Press.
備考	:

■ LL005

科目名	: 語用論研究
担当者	: 平塚 徹
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 含意、前提、発話行為、直示といった語用論における基礎的な概念を理解すること。
授業内容・方法	: テキストを受講生が訳読し、それについて教員が解説を行う。また、それを踏まえて、内容について議論する。
授業計画	: 第1回 オリエンテーション 第2回 Introduction (1) 第3回 Introduction (2) 第4回 Implicature (1) 第5回 Implicature (2) 第6回 Implicature (3) 第7回 Presupposition (1) 第8回 Presupposition (2) 第9回 Speech acts (1) 第10回 Speech acts (2) 第11回 Speech acts (3) 第12回 Deixis (1) 第13回 Deixis (2) 第14回 Deixis (3) 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 平常点(発表・議論)に基づいて評価する。
教材など	: Yan Huang, Pragmatics (Oxford Textbooks in Linguistics), Oxford University Press
備考	:

■ LL006

科目名	: 一般言語学セミナー
担当者	: 大城 光正
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 言語に関する一般理論をその研究方法の習得、及び個別言語の記述的・歴史的研究あるいは一般言語理論の構築をめざすための言語学的な知識の習得を目的とする。
授業内容・方法	: 出席者の希望の研究分野を考慮に入れて、欧文の言語学専門書の講読と、更には他の論文も使用して討論、講義をくみあわせておこなう。主な内容は統語論を扱う。
授業計画	: 第1回 言語(特に統語論)に関する一般理論の概説 第2回 言語(特に統語論)に関する一般理論の問題点 第3回 一般言語理論の構築をめざすための言語学的な知識について 第4回 一般言語理論の構築をめざすための問題点 第5回 最新の文法理論の構築をめざすための言語学的な知識について 第6回 最新の文法理論の問題点の考察 第7回 統語論に関する研究方法について 第8回 統語論研究の問題点と分析方法 第9回 個別言語(特に統語論)の記述的・歴史的研究について 第10回 個別言語(特に統語論)の記述的・歴史的研究の問題点 第11回 個別言語(特に統語論)の比較的研究について 第12回 印欧比較言語学における統語論研究の事例 第13回 印欧比較言語学における統語論研究の事例 (欧文資料) 第14回 個別言語の統語論の分析事例報告 第15回 統語論研究の問題点とその総括
評価方法・基準	: 各自の口頭による発表内容(50%)と、提出されるレポート(50%)で評価する。
教材など	: 適宜指示する。
備考	:

■ LL007

科目名	: 比較言語学セミナー
担当者	: 矢野 道雄
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 古代インドのサンスクリット資料を、11世紀のペルシア人博学者アル・ビールニーがどのように利用したかを考察し、インドとイスラームの言語観・文法観を比較する。
授業内容・方法	: アル・ビールニーの『インド誌』のアラビア語テキストを精読し、サンスクリット原典と比較する。
授業計画	: この講義は春学期の「比較言語学研究」を受け継ぐものであり、アラビア語のテキストのうち、春学期に読めなかった部分を読む。とくにアル・ビールニーがインドの言語をどのように理解していたかを知るための手がかりになるような部分を取り上げる。
評価方法・基準	: 平常評価
教材など	: プリントを配付する。
備考	:

■ LL008

科目名	: 対照言語学セミナー
担当者	: 浜田 盛男
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 日本語と各自の専攻言語の仕組みを理解した上で、対照研究の方法論を習得する。
授業内容・方法	: 文法（形態・統語）、意味論、語用論に関する対照言語学の問題を考える。
授業計画	: 第1回 言語の対照研究の実践 第2回 言語の対照研究の実践（専攻言語との比較対照の観点から） 第3回 言語の対照研究の実践事例 第4回 対照研究における統語論について 第5回 対照研究における統語論の問題点 第6回 対照研究における統語論の分析方法 第7回 専攻言語との統語論の対照研究の問題 第8回 専攻言語との語用論の対照研究について 第9回 専攻言語との語用論の対照研究の問題点 第10回 言語対照における語彙研究について 第11回 言語対照における語彙の問題点 第12回 言語対照における語彙の分析方法 第13回 日本語と専攻言語間の対照研究(統語論・語用論・語彙を中心に)の問題点について 第14回 日本語と専攻言語間の対照研究(統語論・語用論・語彙を中心に)の分析方法について 第15回 統語論(語用論・語彙を含む)に関する対照言語学研究の総括
評価方法・基準	: 各自の口頭による発表内容(50%)と、提出されるレポート(50%)で評価する。
教材など	: プリント配付
備考	:

■ LL009

科目名	: 応用言語学セミナー
担当者	: 山本 啓二
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 世界の諸言語に存在するいろいろなタイプの所有構文について学び、自分が研究している言語の所有構文の組織がどのようなものであるか考察する。
授業内容・方法	: Heine(1997) を講読し、世界の諸言語に存在するいろいろなタイプの所有構文について学ぶ。
授業計画	: 第1回 特定化 第2回 所有者上昇について 第3回 譲渡不可能性について 第4回 属性所有と述語所有について 第5回 所有からアスペクトへ 第6回 平行性 第7回 明確化所有 第8回 推移のパターン 第9回 存在、所有、場所と他の領域 第10回 評価 第11回 代替りのアプローチ 第12回 出来事の図式 第13回 範疇と普遍性について 第14回 説明について 第15回 結論
評価方法・基準	: 平常点 50%、レポート 50%で評価する。
教材など	: Heine(1997) <i>Possession: Cognitive sources, forces, and grammaticalization</i> , Cambridge, Cambridge University Press.
備考	:

■ LL010

科目名	: 語用論セミナー
担当者	: 平塚 徹
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 語用論と認知・意味論・統語論との関係について理解すること
授業内容・方法	: テキストを受講生が訳読し、それについて教員が解説を行う。また、それを踏まえて、内容について議論する。
授業計画	: 第1回 オリエンテーション 第2回 Pragmatics and cognition (1) 第3回 Pragmatics and cognition (2) 第4回 Pragmatics and cognition (3) 第5回 Pragmatics and semantics (1) 第6回 Pragmatics and semantics (2) 第7回 Pragmatics and semantics (3) 第8回 Pragmatics and syntax (1) 第9回 Pragmatics and syntax (2) 第10回 Pragmatics and syntax (3) 第11回 受講生と協議して語用論の文献を選び、講読し、内容について議論する。(1) 第12回 受講生と協議して語用論の文献を選び、講読し、内容について議論する。(2) 第13回 受講生と協議して語用論の文献を選び、講読し、内容について議論する。(3) 第14回 受講生と協議して語用論の文献を選び、講読し、内容について議論する。(4) 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 平常点(発表・議論)に基づいて評価する。
教材など	: Yan Huang, Pragmatics (Oxford Textbooks in Linguistics), Oxford University Press
備考	:

■ LL011

科目名	: 一般言語学発展セミナー
担当者	: 山本 啓二
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: アラビア語およびアラビア語文法学の歴史を考察する。
授業内容・方法	: 英文の研究書を読みながら、アラビア語を歴史的に観点から学ぶ。
授業計画	: 第1回 アラビア語研究の発展 第2回 セム語としてのアラビア語 第3回 初期のアラビア語 第4回 イスラーム以前のアラビア語 第5回 古典アラビア語の発展 第6回 古典アラビア語の構造 第7回 新たなアラビア語の出現 第8回 中期アラビア語 第9回 アラビア語方言の研究 第10回 アラビア語の諸方言 第11回 現代標準アラビア語の出現 第12回 二重言語併用とバイリンガリズム 第13回 マイノリティーの言語としてのアラビア語 第14回 世界言語としてのアラビア語 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 平常点による。
教材など	: Kees Versteegh, <i>The Arabic Language</i> , Edinburgh, 1997.
備考	:

■ LL012

科目名	: 比較言語学発展セミナー
担当者	: 矢野 道雄
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: サンスクリット文法を概観することによって比較言語学の基礎を身につける。
授業内容・方法	: Manfred Mayrhofer の Sanskrit-Grammatik を解説する。
授業計画	: 第1回 Einleitung (導入) 第2回 Lautlehre (音韻論) 第3回 同上 第4回 同上 第5回 Betonung (アクセント) 第6回 Sandhi (連声) 第7回 Steigung (母音変化) 第8回 Nomen (名詞) 第9回 同上 第10回 Pronomen (代名詞) 第11回 Zahlwort (数詞) 第12回 Verbum (動詞) 第13回 同上 第14回 同上 第15回 Komposition (複合語)
評価方法・基準	: 平常点
教材など	: コピーを用意する。
備考	:

■ LL013

科目名	: 対照言語学発展セミナー
担当者	: 小林 満
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 日本語・イタリア語の対照研究をとおして両言語の特徴を明らかにすること。
授業内容・方法	: 日本の小説・漫画・アニメなどでイタリア語の翻訳や吹き替えがある作品を具体的に対照言語学的に分析していく。それぞれ4回ずつ分析に時間を充てるが、(1)切り口の発見(2)具体的分析(3)批判的検証(4)総括の順に進める。準備するために事前・事後学習が多く要求される。
授業計画	: 第1回 対照言語学概観 第2回 日本語・イタリア語の対照研究概観 第3回 イタリア語に翻訳された日本の漫画の分析(1) 第4回 イタリア語に翻訳された日本の漫画の分析(2) 第5回 イタリア語に翻訳された日本の漫画の分析(3) 第6回 イタリア語に翻訳された日本の漫画の分析(4) 第7回 イタリア語の吹き替えがある日本のアニメの分析(1) 第8回 イタリア語の吹き替えがある日本のアニメの分析(2) 第9回 イタリア語の吹き替えがある日本のアニメの分析(3) 第10回 イタリア語の吹き替えがある日本のアニメの分析(4) 第11回 イタリア語に翻訳された日本の小説の分析(1) 第12回 イタリア語に翻訳された日本の小説の分析(2) 第13回 イタリア語に翻訳された日本の小説の分析(3) 第14回 イタリア語に翻訳された日本の小説の分析(4) 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 平常点(50%)とレポート(50%)によって評価する。
教材など	: 必要に応じてプリント配付
備考	:

■ LL014

科目名	: 応用言語学発展セミナー
担当者	: 青木 正博
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 世界の諸言語に存在するいろいろなタイプの所有構文について学び、自分が研究している言語の所有構文の組織がどのようなものであるか考察する。
授業内容・方法	: Heine(1997) を講読し、世界の諸言語に存在するいろいろなタイプの所有構文について学ぶ。
授業計画	: 第1回 状態 第2回 序論 第3回 序論 第4回 いくつかの所有概念 第5回 問題点 第6回 過程 第7回 情報源 第8回 文法化 第9回 目標 第10回 図式の再構 第11回 言語内部のヴァリエント 第12回 図式と所有概念 第13回 さらなる論点 第14回 属性所有について 第15回 情報源から目標へ
評価方法・基準	: 平常点 50%、レポート 50%で評価する。
教材など	: Heine(1997) Possession: Cognitive sources, forces, and grammaticalization, Cambridge, Cambridge University Press.
備考	:

■ LL015

科目名	: 語用論発展セミナー
担当者	: 山本 啓二
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 現代アラビア語の文語を対象に考察する。
授業内容・方法	: 最近出版された英文のレファランス・グラマーを読みながら、現代アラビア語の語用論について学ぶ。
授業計画	: 第1回 音韻論と文字 第2回 語構成 第3回 文構造 第4回 名詞 第5回 形容詞 第6回 代名詞 第7回 数詞 第8回 疑問詞 第9回 接続詞 第10回 従属節 第11回 動詞1 第12回 動詞2 第13回 動詞派生形 II 第14回 動詞派生形 III 第15回 動詞派生形 IV
評価方法・基準	: 平常点による。
教材など	: Karin C. Ryding, <i>A Reference Grammar of Modern Standard Arabic</i> , Cambridge, 2005.
備考	:

■ LL016

科目名	: 一般言語学特講
担当者	: 山本 啓二
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 古典アラビア語の統語論を考察する。
授業内容・方法	: 古典アラビア語の統語論についてドイツ語で書かれた著作を読みながら、アラビア語の統語論を学ぶ。
授業計画	: 第1回 名詞文 第2回 名詞類 第3回 動詞文 第4回 主語と述語の一致 第5回 疑問文 第6回 否定文 第7回 対格 第8回 属格 第9回 動名詞 第10回 限定関係 第11回 前置詞 第12回 数詞 第13回 不完全文 第14回 感嘆文 第15回 代名詞
評価方法・基準	: 平常点による。
教材など	: H. Reckendorf, <i>Die syntaktischen Verhältnisse des Arabischen</i> , Leiden, 1895.
備考	:

■ LL017

科目名	: 比較言語学特講
担当者	: 矢野 道雄
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 天文学・占星術に関するサンスクリットの語彙が中国語にどのように翻訳されているかを考察する。
授業内容・方法	: 漢訳仏典などに見られる天文学・占星術の術語をサンスクリット文献に見られる術語と比較する。
授業計画	: 古い時代に属する『摩登伽経』『舎頭諫太子二十八宿経』、隋代の『大集経』、唐代の『九執曆』『宿曜経』『七曜攘災決』、宋代の『支輪経』、さらに明代の『明訳天文書』と時代を追って訳語を取り上げて、サンスクリット文献に見られる術語と比較する。
評価方法・基準	: 平常評価
教材など	: プリントを配付する。
備考	:

■ LL018

科目名	: 対照言語学特講
担当者	: 小林 満
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 具体的事例をとおして日本語・イタリア語の対照研究の現状を理解する。
授業内容・方法	: 日本語・イタリア語の対照研究のテキストを批判的に読みつつ、自らも関連する事例を研究して発表する。
授業計画	: 第1回 日本語・イタリア語の対照研究史 第2回 音韻体系の対照研究 第3回 オノマトペの対照研究 第4回 親族語彙の対照研究 第5回 色彩語彙の対照研究 第6回 指示形容詞の対照研究 第7回 動詞の対照研究（1） 第8回 動詞の対照研究（2） 第9回 否定接頭辞の対照研究 第10回 文末表現の対照研究 第11回 借用語の対照研究（1） 第12回 借用語の対照研究（2） 第13回 借用語の対照研究（3） 第14回 借用語の対照研究（4） 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 平常点(50%)とレポート(50%)によって評価する。
教材など	: 古浦敏生『日本語・イタリア語対照研究』（文流）
備考	:

■ LL019

科目名	: 応用言語学特講
担当者	: 青木 正博
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 世界の諸言語に存在するいろいろなタイプの所有構文について学び、自分が研究している言語の所有構文の組織がどのようなものであるか考察する。
授業内容・方法	: Heine(1997) を講読し、世界の諸言語に存在するいろいろなタイプの所有構文について学ぶ。
授業計画	: 第1回 特定化 第2回 所有者上昇について 第3回 譲渡不可能性について 第4回 属性所有と述語所有について 第5回 所有からアスペクトへ 第6回 平行性 第7回 明確化所有 第8回 推移のパターン 第9回 存在、所有、場所と他の領域 第10回 評価 第11回 代替りのアプローチ 第12回 出来事の図式 第13回 範疇と普遍性について 第14回 説明について 第15回 結論
評価方法・基準	: 平常点 50%、レポート 50%で評価する。
教材など	: Heine(1997) Possession: Cognitive sources, forces, and grammaticalization, Cambridge, Cambridge University Press.
備考	:

■ LL020

科目名	: 語用論特講
担当者	: 山本 啓二
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 2年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 現代アラビア語の文語を対象に考察する。
授業内容・方法	: 最近出版された英文のレファランス・グラマーを読みながら、現代アラビア語の語用論について学ぶ。
授業計画	: 第1回 動詞派生形 V 第2回 動詞派生形 VI 第3回 動詞派生形 VII 第4回 動詞派生形 VIII 第5回 動詞派生形 IX 第6回 動詞派生形 X 第7回 四語根動詞 第8回 直接法 第9回 接続法 第10回 要求法 第11回 命令法 第12回 存在の自動詞 第13回 否定文 第14回 受動態 第15回 仮定文
評価方法・基準	: 平常点による。
教材など	: Karin C. Ryding, <i>A Reference Grammar of Modern Standard Arabic</i> , Cambridge, 2005.
備考	:

■ LL021

科目名	: 日本語特講A
担当者	: 浜田 盛男
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 日本語に関するいろいろな問題を扱うことで、現代日本語の分析と研究の方法論を習得する。
授業内容・方法	: 現代日本語の音声と音韻、文字、語彙、日本語表記法に関する問題をいろいろな文献を使用して講義と討論を組み合わせておこなう。
授業計画	: 第1回 現代日本語研究の現状を探る 第2回 現代日本語研究の問題点を考える 第3回 日本語音声学の問題点 第4回 日本語音声学の研究分析 第5回 日本語の音韻分析 第6回 日本語の音韻研究について 第7回 日本語の音声と音韻の関係（音節とモーラ） 第8回 日本の文字体系を考える 第9回 日本語の文字の問題点 第10回 日本語の文字表記について 第11回 日本語の文字問題（漢字とカタカナ語） 第12回 日本語の語彙の問題 第13回 日本語の語彙(常用漢字数の改訂等)の問題分析 第14回 日本語の造語法について 第15回 日本語の音声・音韻、文字と語彙に関する問題点とその総括
評価方法・基準	: 各自の口頭による発表内容(50%)と、提出されるレポート(50%)で評価する。
教材など	: プリント配付
備考	:

■ LL022

科目名	: 日本語特講B
担当者	: 浜田 盛男
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 日本語に関するいろいろな問題を扱うことで、現代日本語の分析と研究の方法論を習得する。
授業内容・方法	: 現代日本語の文法（形態・統語）、語用論、待遇表現に関する問題をいろいろな文献を使用して講義と討論を組み合わせておこなう。
授業計画	: 第1回 現代日本語研究の現状を理解する 第2回 現代日本語研究の問題点 第3回 日本語の形態論の問題 第4回 日本語の形態的特徴の抽出 第5回 日本語の形態的特徴の分析研究 第6回 日本語の統語論の問題 第7回 日本語の統語的特徴の分析 第8回 日本語の統語的特徴の分析研究 第9回 日本語の語用論の問題 第10回 日本語の語用論的な事例の抽出 第11回 日本語の語用論的な事例の分析研究 第12回 日本語の待遇表現の問題点 第13回 日本語の待遇表現の事例研究 第14回 日本語の待遇表現の対照研究 第15回 現代日本語の文法、語用論、待遇表現に関する問題点とその総括
評価方法・基準	: 各自の口頭発表(50%)と、提出されるレポート(50%)で評価する。
教材など	: プリント配付
備考	:

■ LL023

科目名	: ドイツ語特講 A
担当者	: 生田 真人
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 新高ドイツ語の発展の歴史を学び、ドイツ文法の重要項目を習得する。
授業内容・方法	: 新高ドイツ語の歴史的変遷を講義で説明し、一部、実習の形で受講者にドイツ文法の骨格を理解してもらう。16世紀にマルティン・ルターが聖書を翻訳することで開拓していったドイツ語の今日までの変遷過程と文法形態を15回に分けて講義する。言語の変遷過程と連動して変化していったドイツ文化の特徴も、併せて講義内容とする。
授業計画	: 第1回 オリエンテーション 第2回 新高ドイツ語とは？ 第3回 新高ドイツ語の具体的特徴（その1） 第4回 新高ドイツ語の具体的特徴（その2） 第5回 新高ドイツ語の具体的特徴（その3） 第6回 新高ドイツ語の具体的特徴（その4） 第7回 新高ドイツ語の具体的特徴（その5） 第8回 現代ドイツ語への変遷過程（その1） 第9回 現代ドイツ語への変遷過程（その2） 第10回 現代ドイツ語への変遷過程（その3） 第11回 現代ドイツ語への変遷過程（その4） 第12回 現代ドイツ語への変遷過程（その5） 第13回 現代ドイツ語への変遷過程（その6） 第14回 新高ドイツ語と現代ドイツ語 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 講義聴講への積極的な熱意と、学期末に提出してもらうレポートの内容に応じて評価する。
教材など	: (Hg.) Ader, Dorothea, Schüler-Duden (Dudenverlag 2013、改訂版)
備考	: 教材はコピーで配付の予定。

■ LL024

科目名	: ドイツ語特講 B
担当者	: 生田 真人
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 現代ドイツ語の発展の歴史を学び、ドイツ文法の重要項目を習得する。
授業内容・方法	: 春学期の学習の継続として、現代ドイツ語の今日までの変遷過程と文法形態を 15 回に分けて講義する。言語の変遷過程と連動して変化していったドイツ文化の特徴の研究も講義内容とする。
授業計画	: 第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 現代ドイツ語とは？ 第 3 回 現代ドイツ語の地域差 第 4 回 現代ドイツ語の文法 (動詞研究) 第 5 回 現代ドイツ語の文法 (名詞研究) 第 6 回 現代ドイツ語の文法 (形容詞研究) 第 7 回 現代ドイツ語の文法 (副詞研究) 第 8 回 現代ドイツ語の文法 (等位接続詞研究) 第 9 回 現代ドイツ語の文法 (従属接続詞研究) 第 10 回 現代ドイツ語の文法 (前置詞研究) 第 11 回 現代ドイツ語の文法 (文体論、研究 1) 第 12 回 現代ドイツ語の文法 (文体論、研究 2) 第 13 回 現代ドイツ語の文法 (文体論、研究 3) 第 14 回 新高ドイツ語と現代ドイツ語の文体論的比較 第 15 回 まとめ
評価方法・基準	: 講義聴講への積極的な熱意と、学期末に提出してもらったレポートの内容に応じて評価する。
教材など	: (Hg.) Ader, Dorothea, Schüler-Duden (Dudenverlag 2013、改訂版)
備考	: 教材はコピーで配付の予定。

■ LL025

科目名	: フランス語特講A
担当者	: 平塚 徹
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: フランス語についてフランス語で書かれた文献を読んで理解できるようになること
授業内容・方法	: テキストを受講生が訳読し、それについて教員が解説を行う。内容についても議論を行う。
授業計画	: 第1回 オリエンテーション 第2回 La linguistique : aperçu historique 第3回 Saussure et le cours de linguistique générale 第4回 Ecoles et domaines de la linguistique 第5回 Les concepts fondamentaux de la linguistique structurale 第6回 Eléments de phonétique articulatoire 第7回 Eléments de phonétique acoustique 第8回 L'alphabet phonétique international 第9回 Les classements 第10回 La perspective phonologique 第11回 Les faits prosodiques 第12回 Le mot 第13回 Sémantique du mot 第14回 Lexicographie et pratique du dictionnaire 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 平常点(発表)に基づいて評価する。
教材など	: Introduction à la linguistique française : Tome 1, Paris : Hachette, 2001.
備考	:

■ LL026

科目名	: フランス語特講B
担当者	: 平塚 徹
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: フランス語についてフランス語で書かれた文献を読んで理解できるようになること。
授業内容・方法	: テキストを受講生が訳読し、それについて教員が解説を行う。内容についても議論を行う。
授業計画	: 第1回 オリエンテーション 第2回 Le domaine de la syntaxe 第3回 Les principes de l'analyse en constituants immédiats 第4回 Analyse des constituants majeurs de la phrase 第5回 La phrase complexe 第6回 De la phrase au texte : anaphore et progression thématique 第7回 Les situations de communication et le sujet dans la langue 第8回 La langue dans l'espace et le temps 第9回 Des registres de langue aux pratiques linguistiques 第10回 Textes et fonction poétique 第11回 Approches du signifiant 第12回 Approches du signifié 第13回 受講生と協議してテキストを選択する(1) 第14回 受講生と協議してテキストを選択する(2) 第15回 受講生と協議してテキストを選択する(3)
評価方法・基準	: 平常点(発表)に基づいて評価する。
教材など	: Introduction à la linguistique française : Tome 2, Paris : Hachette, 2001.
備考	:

■ LL029

科目名	: イタリア語特講A
担当者	: 小林 満
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 古代・中世から現代にいたるイタリア語の歴史を理解すること。
授業内容・方法	: イタリア語で書かれたテキストを読みながら解説を加えていく。
授業計画	: 第1回 ラテン語から俗語へ 第2回 イタリア語の初期資料 第3回 聖フランチェスコ 第4回 シチリア派の詩人たち 第5回 ダンテ (1) 第6回 ダンテ (2) 第7回 ペトラルカ 第8回 15世紀 第9回 言語論争 (1) 第10回 言語論争 (2) 第11回 クルスカ辞典の成立 第12回 啓蒙主義の時代 第13回 国家統一と国語の誕生 第14回 20世紀前半 (ファシズムを中心に) 第15回 20世紀後半のイタリア語
評価方法・基準	: 平常点(50%)とレポート(50%)によって評価する。
教材など	: 必要に応じてプリント配付
備考	:

■ LL030

科目名	: イタリア語特講B
担当者	: 小林 満
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: イタリア半島の諸方言の諸側面について理解すること。
授業内容・方法	: イタリア語で書かれたテキストと各方言で書かれた作品を読みながら解説を加えていく。
授業計画	: 第1回 イタリア半島における諸方言の概観 第2回 ヴェネト方言 第3回 ルツァンテの作品を読む 第4回 ミラノ方言 第5回 ポルタの作品を読む 第6回 ボローニャ方言 第7回 ローマ方言 第8回 ベッリの作品を読む 第9回 ナポリ方言 第10回 バジーレの作品を読む 第11回 ナポリ方言のポップスの歴史 第12回 シチリア方言 第13回 シチリア派の作品を読む 第14回 カミッレーリの作品を読む 第15回 サルデーニャ語
評価方法・基準	: 平常点(50%)とレポート(50%)によって評価する。
教材など	: 必要に応じてプリント配付
備考	:

■ LL031

科目名	: ロシア語特講 A
担当者	: 青木 正博
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: ロシア語の格の意味について理解する。
授業内容・方法	: ロシア科学アカデミー発行 『ロシア語文法』 (1980) の格に関する部分を講読し、検討する。
授業計画	: 第1回 格のカテゴリー 第2回 一般的定義 第3回 格のカテゴリーを示す一連の形式 第4回 『格』という術語のいろいろな意味 第5回 格の形式的表現 第6回 格変化組織による名詞を3つのクラス (格変化タイプ) への分類 第7回 格変化と名詞変化表の特徴づけ 第8回 同じ変化タイプ内での変化形の同音異義 第9回 異なる変化タイプでの変化形の同音異義 第10回 格の意味 第11回 導入のコメント 第12回 語と統語構文との関係における格 第13回 語につく格関係と語につかない格関係 第14回 格の基本的意味 第15回 格の客観的意味
評価方法・基準	: 平常点 50%、レポート 50%の割合で評価する。
教材など	: Русская грамматика. Академия наук СССР, 1980
備考	:

■ LL032

科目名	: ロシア語特講 B
担当者	: 青木 正博
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: ロシア語の格の意味について理解する。
授業内容・方法	: ロシア科学アカデミー発行 『ロシア語文法』 (1980) の格に関する部分を講読し、検討する。
授業計画	: 第1回 格の主観的意味 第2回 格の定語的意味 第3回 格の抽象的意味と具体的意味 第4回 情報的に必要な補足形式としての格 第5回 格の意味の混成 第6回 格の意味が形成される要因 第7回 多くの意味を持つ単位としての格 第8回 格の中心的意味と周辺の意味 第9回 前置詞に支配される格の形式とそれらの意味の特質 第10回 前置詞なしの格 第11回 主格 第12回 生格 第13回 与格 第14回 対格 第15回 造格
評価方法・基準	: 平常点 50%、レポート 50%の割合で評価する。
教材など	: Русская грамматика. Академия наук СССР, 1980
備考	:

■ LL033

科目名	: サンスクリット特講A
担当者	: 矢野 道雄
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: サンスクリットの文法を理解することによって、インド・ヨーロッパ語比較言語学の基本を学ぶ。
授業内容・方法	: Perry の文法書を用い、とくに練習問題を完全理解できるようにする。
授業計画	: 第1回 Introduction 第2回 Lesson1 第3回 Lesson2-3 第4回 Lesson4-5 第5回 Lesson6-7 第6回 Lesson8-9 第7回 Lesson10-11 第8回 Lesson12-13 第9回 Lesson14-15 第10回 Lesson16-17 第11回 Lesson18-19 第12回 Lesson20-21 第13回 Lesson22-23 第14回 Lesson24-25 第15回 Lesson26-27
評価方法・基準	: 毎回の練習問題により評価する。
教材など	: Perry, A Sanskrit Primer(インド版を配付する。)
備考	:

■ LL034

科目名	: サンスクリット特講B
担当者	: 矢野 道雄
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 春学期の続き。練習問題を通じてサンスクリットの文法を理解する。
授業内容・方法	: Perry の文法書を用い、とくに練習問題を完全理解できるようにする。後半は Lanman の読本を読む。
授業計画	: 第1回 Lesson28-29 第2回 Lesson30-31 第3回 Lesson32-33 第4回 Lesson34-35 第5回 Lesson36-37 第6回 Lesson38-39 第7回 Lesson40-41 第8回 Lesson42 第9回 Lanman, SanskritReader 第10回 Lanman, SanskritReader 第11回 Lanman, SanskritReader 第12回 Lanman, SanskritReader 第13回 Lanman, SanskritReader 第14回 Lanman, SanskritReader 第15回 Lanman, SanskritReader
評価方法・基準	: 毎回の練習問題と読本の理解度により評価する。
教材など	: Perry, A Sanskrit Primer (インド版を配付する。)、 Lanman, Sanskrit Reader (インド版を配付する。)
備考	:

■ LL035

科目名	: モンゴル・満州・トルコ語特講A
担当者	: 池田 哲郎
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: アジアの中のアルタイ語として概説する。
授業内容・方法	: 主に講読とするが、希望により実際のモンゴル語（内外モンゴル）、満州語（エヴェンキ語）、トルコ共和国トルコ語のテキストを講読してもよい。
授業計画	: 第1回 アジア南方の言語の分布について 第2回 アジア北方の言語の分布について 第3回 アルタイ言語学入門 第4回 アルタイの現代語 モンゴル語 第5回 続き 言語文字テキスト紹介 第6回 アルタイの現代語 エヴェンキ語 第7回 続き（満州口語は外した） 第8回 アルタイの現代語 トルコ語 第9回 続き 言語文字テキスト紹介 第10回 続き 言語文字テキスト紹介 第11回 ウラル言語学入門 第12回 日本語の系統、ハンガリー語の系統 第13回 アルタイ語の構造、ウラル語の構造 第14回 言語理論からみたアルタイ語 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 平常点 50% レポート 50% 各回ごとにテーマに見合った課題を与えるので、それぞれ A4(40字 40行)で2枚提出する。
教材など	: 指定しないが、希望に応じる。
備考	:

■ LL036

科目名	: モンゴル・満州・トルコ語特講B
担当者	: 池田 哲郎
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: アジアの中のアルタイ語として言語資料あるいは文献資料を読む。
授業内容・方法	: 主に講読とする。アルタイの三つの言語の内、ひとつを選択してもよい。
授業計画	: 第1回 アルタイ文献学入門 第2回 モンゴル文献学入門 第3回 西域の漢字音 第4回 漢字音モンゴル語『元朝秘史』 第5回 蒙漢対訳『華夷訳語』 第6回 モンゴル文語のテキストを読む 第7回 続き 第8回 満州文献学入門 第9回 トルコ文献学入門 第10回 突厥トルコ語碑文 第11回 マフムード・アル・カーシュガリー『トルコ詩歌集』 第12回 続き 第13回 オスマン・トルコ語のテキストを読む 第14回 続き 第15回 まとめ
評価方法・基準	: 平常点 50% レポート 50% 各回ごとにテーマに見合った課題を与えるので、それぞれA4(40字40行)で2枚提出する。
教材など	: 指定しないが、希望に応じる。
備考	:

■ LL037

科目名	: 朝鮮語特講A
担当者	: 朴 真完
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 韓国朝鮮語の初級の学力を養成する。 論文解読・論文作成のための朝鮮語を体系的に学習する。
授業内容・方法	: ハングル（文字）の読み書きや発音の基礎から始め、日常会話表現を通して初級レベルの文法を習得する。作文・読解などに必要な文語表現についても触れる。 文法説明は講義形式で行うが、発音や会話はペアワークで繰り返して練習する。論文解読・論文作成のための読解は、授業中の個人発表を通して重要な表現をチェックし、みんなで反復練習をする。授業内容の理解度を確認するために小テストを頻繁に実施する。
授業計画	: 第1回 文字 第2回 発音の変化 第3回 名詞文 第4回 丁寧(平叙) 第5回 丁寧(疑問) 第6回 尊敬 第7回 基本的な接続語尾 第8回 時制(現在) 第9回 時制(過去) 第10回 使役時制(未来) 第11回 数詞 第12回 助数詞 第13回 助詞の形式と用法 第14回 語尾の形式と用法 第15回 試験とまとめ
評価方法・基準	: 平常点 40%、期末試験 60%
教材など	: 教科書：熊谷明泰 『(初級韓国朝鮮語教材) アリラン』 (朝日出版社、2011) 参考書：油谷幸利・門脇誠一・松尾勇・高島淑郎共編 『朝鮮語辞典』 (小学館、1993) 必要に応じて、プリント教材を配付
備考	:

■ LL038

科目名	: 朝鮮語特講B
担当者	: 朴 真完
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: 韓国朝鮮語の初級の学力を養成する。 論文解説・論文作成のための朝鮮語を体系的に学習する。
授業内容・方法	: ハングル（文字）の読み書きや発音の基礎から始め、日常会話表現を通して初級レベルの文法を習得する。作文・読解などに必要な文語表現についても触れる。 文法説明は講義形式で行うが、発音や会話はペアワークで繰り返して練習する。論文解説・論文作成のための読解は、授業中の個人発表を通して重要な表現をチェックし、みんなで反復練習をする。授業内容の理解度を確認するために小テストを頻繁に実施する。
授業計画	: 第1回 命令文 第2回 請誘文 第3回 否定 第4回 禁止 第5回 合成法（複合名詞、複合形容詞、複合動詞） 第6回 派生法（名詞化、形容詞化、動詞化） 第7回 文語表現 第8回 引用 第9回 受け身 第10回 使役 第11回 変則活用 第12回 連体形 第13回 主要な助詞 第14回 主要な語尾 第15回 試験とまとめ
評価方法・基準	: 平常点 40%、期末試験 60%
教材など	: 教科書：熊谷明泰 『(初級韓国朝鮮語教材) アリラン』 (朝日出版社、2011) 参考書：油谷幸利・門脇誠一・松尾勇・高島淑郎共編 『朝鮮語辞典』 (小学館、1993) 必要に応じて、プリント教材を配付
備考	:

■ LL039

科目名	: インドネシア語特講A
担当者	: 左藤 正範
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: インドネシア語の文法書を基に、現在インドネシア語の直面している、幾つかの重要な問題点に関する理解を深めること。
授業内容・方法	: インドネシア語の文法書を基に、現在インドネシア語の直面している、幾つかの重要な問題点に関する分析・検討を行い、受講者との議論を行う。
授業計画	: 第1回 授業の概要と方法に関する説明 第2回 名詞、代名詞、形容詞 第3回 名詞、代名詞、形容詞 第4回 名詞、代名詞、形容詞 第5回 名詞、代名詞、形容詞 第6回 指示詞、数詞、否定詞 第7回 指示詞、数詞、否定詞 第8回 指示詞、数詞、否定詞 第9回 指示詞、数詞、否定詞 第10回 指示詞、数詞、否定詞 第11回 前置詞、接続詞、副詞 第12回 前置詞、接続詞、副詞 第13回 前置詞、接続詞、副詞 第14回 前置詞、接続詞、副詞 第15回 前置詞、接続詞、副詞
評価方法・基準	: レポート50%と平常の受講態度など50%
教材など	: 教科書: Abdul Chaer. 1994. Tata Bahasa Praktis Bahasa Indonesia. Jakarta: Penerbit Bhratara.
備考	:

■ LL040

科目名	: インドネシア語特講B
担当者	: 左藤 正範
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 秋学期
授業目標	: インドネシア語の文法書を基に、現在インドネシア語の直面している、幾つかの重要な問題点に関する分析・検討を行い、理解を深めること。
授業内容・方法	: インドネシア語の文法書を基に、現在インドネシア語の直面している、幾つかの重要な問題点に関する分析・検討を行い、受講者との議論を行う。
授業計画	: 第1回 授業の概要と方法に関する説明 第2回 疑問詞、間投詞 第3回 疑問詞、間投詞 第4回 疑問詞、間投詞 第5回 疑問詞、間投詞 第6回 接頭辞、接尾辞 第7回 接頭辞、接尾辞 第8回 接頭辞、接尾辞 第9回 接頭辞、接尾辞 第10回 接頭辞、接尾辞 第11回 複合接辞 第12回 複合接辞 第13回 複合接辞 第14回 複合接辞 第15回 複合接辞
評価方法・基準	: レポート 50%と平常の受講態度など 50%
教材など	: 教科書: Abdul Chaer. 1994. <i>Tata Bahasa Praktis Bahasa Indonesia</i> . Jakarta: Penerbit Bhratara.
備考	:

■ LL041

科目名	: アラブ語特講 A
担当者	: 山本 啓二
週時間数	: 2
単位数	: 2
配当年次	: 1年
開講期間	: 春学期
授業目標	: 古典アラビア語の文法を学ぶ。
授業内容・方法	: 英文の文法書を読む。
授業計画	: 第1回 Writing System 第2回 Phonology (1) 第3回 Phonology (2) 第4回 Morphology, Nouns (1) 第5回 Morphology, Nouns (2) 第6回 Morphology, Nouns (3) 第7回 Morphology, Nouns (4) 第8回 Morphology, Nouns (5) 第9回 Morphology, Nouns (6) 第10回 Morphology, Verbs (1) 第11回 Morphology, Verbs (2) 第12回 Morphology, Verbs (3) 第13回 Morphology, Verbs (4) 第14回 Morphology, Verbs (5) 第15回 Morphology, Verbs (6)
評価方法・基準	: 平常点(100%)による。
教材など	: W. Fischer, <i>A Grammar of Classical Arabic</i> , New Haven, 2002.
備考	:

■ LL042

科目名 : アラブ語特講 B

担当者 : 山本 啓二

週時間数 : 2

単位数 : 2

配当年次 : 1年

開講期間 : 秋学期

授業目標 : 古典アラビア語の文法を学ぶ。

授業内容・方法 : 英文の文法書を読む。

授業計画 : 第1回 Morphology, Pronouns

第2回 Morphology, Particles (1)

第3回 Morphology, Particles (2)

第4回 Morphology, Particles (3)

第5回 Morphology, Particles (4)

第6回 Morphology, Particles (5)

第7回 Morphology, Particles (6)

第8回 Syntax (1)

第9回 Syntax (2)

第10回 Syntax (3)

第11回 Syntax (4)

第12回 Syntax (5)

第13回 Syntax (6)

第14回 Syntax (7)

第15回 Syntax (8)

評価方法・基準 : 平常点(100%)による。

教材など : W. Fischer, *A Grammar of Classical Arabic*, New Haven, 2002.

備考 :

■ LE035・LC031・LL043

科目名	: 研究指導1・2
担当者	: 研究指導教員
週時間数	: 2
単位数	: 4
配当年次	: 2年
開講期間	: 通年
授業目標	: 春学期：修士論文または特定課題研究成果報告書の作成に向けて必要な文献の収集と精査、研究計画の立案等を行う。 秋学期：修士論文または特定課題研究成果報告書の完成に向けて草案の作成、問題点の整理と改善、最終稿の執筆を行う。
授業内容・方法	: 研究指導教員による個別指導。
授業計画	: 春学期：授業の進め方は研究指導教員により異なるが、概ね以下の段階を経て進める。 第1回 基本文献のレビュー 第2回 基本文献のレビュー 第3回 基本文献のレビュー 第4回 研究テーマの設定 第5回 研究テーマの設定 第6回 研究テーマの設定 第7回 研究計画の作成 第8回 研究計画の作成 第9回 研究計画の作成 第10回 データの収集・分析 第11回 データの収集・分析 第12回 データの収集・分析 第13回 最新の文献の研究 第14回 最新の文献の研究 第15回 最新の文献の研究 秋学期：授業の進め方は研究指導教員により異なるが、概ね以下の段階を経て進める。 第1回 草稿の作成 第2回 草稿の作成 第3回 草稿の作成 第4回 問題点の整理と改善 第5回 問題点の整理と改善 第6回 問題点の整理と改善 第7回 草稿の修正 第8回 草稿の修正 第9回 草稿の修正 第10回 修士論文または特定課題研究成果報告書の完成・提出 第11回 修士論文または特定課題研究成果報告書の完成・提出 第12回 修士論文または特定課題研究成果報告書の完成・提出 第13回 口頭試問 第14回 口頭試問 第15回 口頭試問
評価方法・基準	: 修士論文または特定課題研究成果報告書の内容および口頭試問の結果により評価する。
教材など	: 必要に応じ研究指導教員が指示する。
備考	: